

温泉や温泉地に関する最近の取組について、ヒアリングしてきました！

温泉や温泉地に関する取組として4件を紹介します。コロナ禍でも新たな湯治のかたちを模索されています。

欧州ラドン温泉療法研究会

- 欧州ラドン温泉療法研究会では、欧州におけるラドン温泉の健康増進や温泉療法の医科学的な研究成果について情報共有するための活動を展開している。
- 欧州におけるラドンの捉え方は、大きく分けるとドイツ語圏とラテン語圏で異なる側面があると捉えている。ドイツ語圏では**安全性が担保されるのであれば積極的に活用**しようという考えで、特に慢性的な炎症や痛みに対する効果を期待して自然療法として受け入れられている。
- 一方、フランス、イタリア、スイスなどのラテン語圏では、ラドンをあまり前面に出さないようにしながら、**健康・美容などの領域で賢く利用**されている。
- 日本でも、欧州におけるこうしたラドン温泉活用のいいところ取りができないか。**医療・健康・美容という領域においてラドン温泉を活用することができれば、新たな経済を生み出す**ことにつながる可能性もある。
- そのためには、身体に対するラドン温泉のポジティブな影響を示す研究が必要となる。例えば、ラドン温泉に入ることによって深部体温が高まるかどうかといった、基礎的な研究成果が不足している。会として、まずはこのような研究から始めていきたい。

ハイルシュトレン坑道浴病院坑道内



一里野高原ホテルろあん

- 一里野高原ホテルろあんでは、これまでワーケーションに取り組んできた。長期滞在向けの宿泊プラン、農業などの体験コンテンツづくりのほか、廃業した宿をコワーキング、シェアハウス、ゲストハウスから成る複合施設に改装するプロジェクトも並行して進めている。
- ワーケーションによって、**心と身体のメンテナンスをしながら温泉地に長く滞在するという、新しい湯治を展開できる状況になった**。そこに、サウナを組み合わせた「サウナ湯治」があってもいいのではないかな。
- 実は上流の斜面崩落による配湯管の破断により、1年以上温泉が届いていない。復旧が見通せず厳しい状況であるが、当館ではテントサウナを設置することで新たな魅力づくりに取り組んでいる。テントサウナは露天風呂に設置しており、外気浴は自然の中で楽しむことができる。大浴場はかけ流しの水風呂とし、水温は9度と16度の2種類用意している。ロウリュは、地元の蒸留所で作ったアロマ水を使用している。通が懂れる要素が揃っており、サウナ上級者を中心に好評を得ている。
- サウナは薪と水という自然の恵みだけでできている。**こうした自然に癒されてまた頑張ろうと思える、そんな湯治のかたちをつくりたい**。



四万温泉 SHIN湯治 スパゲストハウスルルド

- 四万温泉の株式会社SRKは、新しい湯治のかたちとして「SHIN湯治」を掲げ様々な取組みを展開している。**「SHIN」には新、進、身、心、脈、神など様々な意味を込めた**。長く滞在をしながら、好みの食やアクティビティなどを組み合わせて**自由に時間を過ごせる、そんな新しい湯治場としての温泉地を目指している**。
- そのために、宿のひとつとして展開しているのが「スパゲストハウス ルルド」。廃業した旅館を改装し、ドミトリタイプの宿として再生させた。長期滞在客向けにリーズナブルな価格設定としているほか、温泉やカフェ、ライブラリ、キッチンスペースを備えている。温泉街を巡ることができるよう、1人乗りEVの貸し出しも行っている。5日程度のワーケーション客もあり、今後メインの客層になるとみている。
- 四万温泉の課題は、交通の不便さ、情報の不足、旅館ビジネスにある。交通はUberの導入に向けて動いている。情報については、食やアクティビティなどの情報をリアルタイムで提供するアプリの開発を検討している。**旅館ビジネスについては自らの事業を通じてうまくいく仕組み・ビジネスモデルを示すことで、地域での変革を図りたいと考えている**。



鳥羽温泉郷 扇芳閣

- 扇芳閣では、昨年から**ファミリー層向けのワーケーションプランを提供**している。**ターゲットは未就学児を持つ家庭**で、託児と部屋食と専用風呂をセットにしている。また、客室では仕事に集中できないため、レンタルモニター付きの仕事部屋を別に用意している。更に、お客様の就寝後はゆっくりと過ごしてもらえるよう地ビールを提供も行っている。
- ファミリーワーケーションでポイントとなるのが託児である。**託児サービスがあることで、仕事はもちろん、温泉や読書など様々なことにゆっくりと時間を使うことができる**。お客様の満足度も高い。今後は、旅館として新たに託児所を開設することも予定している。現在は保育士などの資格を持つスタッフで対応しているが、今後は資格取得支援をしながら人材を増やす。
- 弊社は「**世界中の子育て家族から愛される上質な旅館になる**」をビジョンとしている。テレワークが普及したものの、子育て世代のテレワークはかえって生産性が低くなるという課題がある。近年増えているコワーキングスペースの多くも1人での利用を前提としている。**社会のニーズとしても、子育て世代向けのサービスが必要であり、旅館が貢献できると感じている**。

